

氏名

点数

点/100点

## 各論演習 13-1

問1)

当社では製品Aを量産しており、標準原価計算を実施している。次の資料にもとづき、各問いについて答えなさい。

(資料)

## 1. 原価標準

直接材料費：	480円/kg × 2kg/個	= 960円
直接労務費：	600円/時間 × 1.2時間/個	= 720円
製造間接費：	700円/時間 × 1.2時間/個	= 840円
合計		<u>2,520円</u>

## 2. 当月の生産データ

月初仕掛品	700個	(0.2)
当月投入	<u>3,600個</u>	
合計	<u>4,300個</u>	
月末仕掛品	800個	(0.4)
完成品	<u>3,500個</u>	

- (注1) 直接材料はすべて工程の始点で投入している。  
 (注2) ( ) 内の数値は加工費進捗度である。

## 3. 当月の実際原価データ

## ① 直接材料費

月初棚卸高	1,600kg	(実際原価 786,800円)
当月購入高(掛買)	7,600kg	(実際原価 3,877,600円)
月末棚卸高	1,900kg	

材料の実際消費単価は平均法によって算定している。

## ② 直接労務費の当月実際発生額

$$612\text{円/時間} \times 4,444\text{時間} = 2,719,728\text{円}$$

## ③ 製造間接費の当月実際発生額

$$3,210,000\text{円}$$

【設問1】

シングル・プランによった場合の原価計算関係諸勘定を記入しなさい（なお、記入すべき金額がない場合は空欄で良い）。

【設問2】

パーシャル・プランによった場合の原価計算関係諸勘定を記入しなさい（なお、記入すべき金額がない場合は空欄で良い）。

【設問3】

修正パーシャル・プランによった場合の原価計算関係諸勘定を記入しなさい（なお、記入すべき金額がない場合は空欄で良い）。

【設問4】

解答用紙の( ) 内に入る適切な語句を選び"○"で囲みなさい。また、空欄は金額を記入しなさい。

解1)  
【設問1】

(単位：円)



材料			
前月繰越	786,800	仕掛品	
買掛金	3,877,600	次月繰越	
総差異		総差異	

賃金			
諸口	2,719,728	仕掛品	
総差異		総差異	

製造間接費			
諸口	3,210,000	仕掛品	
総差異		総差異	

仕掛品			
前月繰越		製品	
材料		次月繰越	
賃金		総差異	
製造間接費			
総差異			

【設問2】

(単位：円)



材料			
前月繰越	786,800	仕掛品	
買掛金	3,877,600	次月繰越	
総差異		総差異	

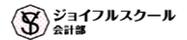
賃金			
諸口	2,719,728	仕掛品	
総差異		総差異	

製造間接費			
諸口	3,210,000	仕掛品	
総差異		総差異	

仕掛品			
前月繰越		製品	
材料		次月繰越	
賃金		総差異	
製造間接費			
総差異			

【設問3】

(単位：円)



材料		
前月繰越	786,800	仕掛品
買掛金	3,877,600	次月繰越
総差異		総差異

賃金		
諸口	2,719,728	仕掛品
総差異		総差異

製造間接費		
諸口	3,210,000	仕掛品
総差異		総差異

仕掛品		
前月繰越		製品
材料		次月繰越
賃金		総差異
製造間接費		
総差異		

【設問4】

シングル・プラン、パーシャル・プラン、修正パーシャル・プランのうち、責任会計の見地からは ( ① ) が最も有用と考えられる。なぜなら、原価差異のうち、( ② ) の差異は、製造責任者にとって管理不能と考えられ、これを ( ③ ) といった製造の勘定に含めるべきではないからである。

例えば、【設問1】シングル・プランにおける材料勘定の総差異 ( ④ ) 円のうち、( ⑤ ) の ( ⑥ ) 円は、【設問3】の修正パーシャル・プランでは ( ⑦ ) の総差異として製造面の差異にしない工夫が施されている。

①	シングル・プラン	パーシャル・プラン	修正パーシャル・プラン
②	価格面	消費量面	
③	材料・賃金・製造間接費勘定	仕掛品勘定	
④		円	
⑤	価格面	消費量面	
⑥		円	
⑦	材料勘定	仕掛品勘定	

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

## 各論演習 13-2

問1)

当社は、製品Lを生産販売しており、標準原価計算を採用している。下記の資料にもとづいて、製造間接費配賦差異を計算し、さらに①四分法、②能率差異は変動費と固定費の両方から算出する三分法、③能率差異は変動費のみから算出する三分法、④二分法により差異分析を行いなさい。なお、不利差異の場合には借方、有利差異の場合には貸方と表示すること。

(資料)

1.原価標準（製品L 1個あたり標準原価）の一部

製造間接費：1,100円/時間 × 1.75時間/個 = 1,925円

(注) 製造間接費の配賦率1,100円/時間は直接作業時間にもとづく予定配賦率であり、月間の正常直接作業時間（基準操業度）は5,000時間、月間固定製造間接費予算額は3,100,000円である。

2.当月の生産データ

月初仕掛品	150個	(0.2)
当月投入	<u>2,670個</u>	
合計	<u>2,820個</u>	
月末仕掛品	500個	(0.9)
完成品	<u><u>2,320個</u></u>	

(注) ( ) 内の数値は、製造間接費の進捗度である。

3.当月の製造間接費実際発生額 5,509,067円（実際直接作業時間 5,010時間）

解1)

製造間接費配賦差異

金額（単位：円）	借方/貸方のいずれかを記入

① 四分法

	金額（単位：円）	借方/貸方のいずれかを記入
予算差異		
変動費能率差異		
固定費能率差異		
操業度差異		

② 能率差異は変動費と固定費の両方から算出する三分法

	金額（単位：円）	借方/貸方のいずれかを記入
予算差異		
能率差異		
操業度差異		

③ 能率差異は変動費のみから算出する三分法

	金額（単位：円）	借方/貸方のいずれかを記入
予算差異		
能率差異		
操業度差異		

④ 二分法

	金額（単位：円）	借方/貸方のいずれかを記入
管理可能差異		
操業度差異		

